

思いやりの心を育成する「サンタの学校」開校

国内初の取り組みに教育業界が注目



日本航空専門学校

日本航空専門学校は「サンタの学校プロジェクト」と題し、10日から21日まで期間限定で、新千歳空港キャンパス（千歳市）でサンタの心を学ぶカリキュラムを実施した。学科ごとに異なる授業を通して「サンタの心」を学ぶこの取り組みは世界的にも珍しく、教育業界を中心に注目が集まっている。

授業の実施を決定した。授業は3日間の短期集中コース。サンタに親近感を持つため、教員・学生ともにサンタ服やクリスマスアイテムを身につけた。学生たちは「ホーホー」というサンタの笑い声の練習や服・帽子の着こなし講習をはじめ、クリスマスソングの練習や寝ている子どもを起さないコツ、トナカイとの触れ合い方などを幅広く学んだ。また学科ごとの授業では、専門性を生かした授業も展開し、航空整備科では空を安全に飛ぶための講習やサンタのそりが故障した時のための車両実習、空港技術科では輸送概念を応用したプレゼントを大切に運ぶための仕組みを受講。国際航空ビジネス科では、夢見る人々へのおもてなし実習を実施し、人を喜ばせる楽しさを学んだ。

さらに今年から、同校の施設で新人客室乗務員（CA）訓練の一部を行う航空会社ピーチ・アビエーション（大阪府田尻町）もこの取り組みに共感。サンタクロスに遭遇した場合を想定した訓練を行い、温かい心で業務に取り組むよう指導がなされた。同校の広報を務める二宮有正（にのみや・ありま）氏は「本学は広い敷地や充実の学習環境を持ち、サンタが好む『夢を持つ人』が集まる場所。サンタの気持ちを考えることで、学生たちに思いやりや気持ちをさらに育んでもらえたら」と今回の取り組みに期待を寄せる。



生態や歴史、夢の大切さなど、サンタについて学ぶ同校の学生たち＝（上）



サンタ遭遇時も安全確認を忘れないよう指導を受けるピーチ社のCAたち＝（下）

大変な職業だがやりがいも

空の学校の視点からサンタの苦労語る

「一晩で世界中の子どもたちにプレゼントを配るサンタ。その仕事の大変さは想像の域をはるかに超えるものだろう。そんな彼の苦労について、日本航空専門学校の梅沢忠弘（うめざわ・ただひろ）学長に「空」と「教育」の視点で語ってもらった。



「サンタと航空業界の共通点は多い」と語る梅沢学長

「健康診断の結果によっては、飛ぶことも許されません。服用禁止や使用が制限される薬があるほか、減圧症という病気の危険性があるためタイミング後、24時間以内は操縦禁止です。また、国や地域・季節で流行するさまざまな病気に注意するなど、私生活でも気を配らねばならないことがあります。サンタは高齢なので特に大変だと思います。」

また、危機管理については「人や物を乗せて空を飛ぶ職業のため、常に危険を想定した動きが重要です。パイロットは天候や風への対処など高度な操縦技術が求められるとやりがいを感じ

ます。必要ですし、整備士はボルトの締め方一つで事故故につながるかもしれないため、正確な作業が求められます。機種によって構造や操作方法が異なるため、本学でも常に勉強し続ける大切さを学生たちに伝えています。空を飛ぶサンタの能力はベテランの域と想像しますが、姿を見られてはいけません。『ルールもあり、苦労は多いと想像します』。その反面、共通の喜びもあるという梅沢学長。「飛行機もサンタも人々の夢を運んでいます。安全に目的地に届けると大きな達成感があり、そこで人々の笑顔が見られるとやりがいを感じ

サンタはボランティアの先駆者

今年にはボランティアの大切さを実感する出来事が続いた。山口県で行方不明だった2歳男児を救出した尾畠春夫（おはたはるお）さんをはじめ、北海道胆振東部地震でも多くのボランティアが活躍し、被災地に元気を与えた。人や社会のためになることを周囲に先駆けて行う精神は、サンタクロスにも相通じるものがある。ボランティアが普及する以前から、サンタは子どもたちの「夢」のために夜空を飛び回ってきた。彼のような人物は、後にも先にも存在しないだろう。

日本航空専門学校の学生も「夢」を追いかける積極的なボランティアに参加している。子どもたちと多様な遊びに挑戦するイベントや、北海道マラソンなどの機会を通して、人に喜びを与える社会人を目指している。ボランティア活動は、小さな善意の積み重ねだ。一つ一つは小さくとも、やがて大きな感動につながる。学生たちは、サンタのように愛にあふれ、強い信念を持つ大人になるだろう。

サンタ検索WEB

「サンタ新聞」募集中心！
我が家のクリスマスやサンタさんへの願い事など投稿しませんか？
※サンタ検索WEBのダウンロード！
ふりがな入り紙面が見られる！

https://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/



駐機場に専用ライト設置誘導灯でサンタ誘引

サンタへのおもてなしを表明している同校では、本日18時から翌25日未明にかけて、「サンタの誘導灯」を設置し、サンタへ歓迎のメッセージを発信する。誘導灯はサンタ来訪への感謝の気持ちを発信するとともに、サンタが道に迷わないように案内するのが目的。同校の施設内にあるエプロン（駐機場）に「SANTA! Welcome to Hokkaido FROM J.A.A (J.A.Aは日本航空学園 (Japan Aviation Academy) の略)」の文字を掲げる。空港の滑走路で使用する誘導路のライトと類似のライトを使用し、23日に同校の職員が総出で設置した。これまでも北海道新聞社をはじめ複数社で誘導灯を設置したものの、広大なキャンパスを使用した発信は同校が初めて。普段、駐機場は実習用スペースとしてセサナ機をはじめとする実習用小型機が置かれていたが、この日は特別にメッセージ発信基地となる。毎年、夢見る子どもたちに素敵な贈り物をくれるサンタ。今年も来てくれてありがとうという気持ちを発信したかった。サンタに少しでも喜んでもらえたら」と同校の担当はほほえんだ。

企画制作／北海道新聞社営業局
この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となつていきます。フックシオンを多く含みますがご理解・ご了承願います。次回は12月25日朝刊予定